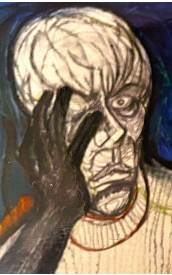


令和7年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表

(別紙1/2)

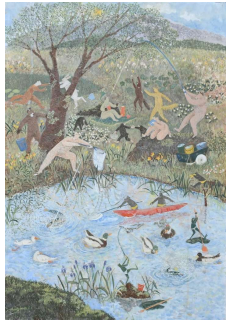
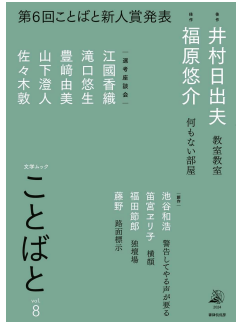
【芸術選奨】

部門順・敬称略

受賞者・部門	受賞理由(概要)	主な作品等
及川 聡子 (おいかわ さとこ・55歳) 美術(日本画)部門 	昭和45年生まれ。 高度な技術を駆使した、造形への深い洞察が感じられる作品が特徴である。平成15年に第14回花の美術大賞展で「根日女賞」、平成18年に第43回宮城県芸術祭で宮城県芸術祭賞、平成30年に日本水墨画大賞展2018で大賞を受賞するなど、数々の公募展等で上位の賞を多数受賞してきた。また、これまで宮城のみならず東京や京都、滋賀、愛知、バンガラディッシュなど各地で個展を開催したり親子展・グループ展に参加したりと精力的に活動してきた。 令和6年度は、東京で個展を開催したほか、中村屋サロン美術館 アーティストリレー総集編 Vol. I への出展、仙台三越で開催された杜の都アートフェスティバルへの出展など地元宮城に留まらず東京でも活発に活動を行い、日本画の魅力の普及に寄与した。 今後も、宮城県のみならず各地で活躍を続け、日本画界を牽引していく作家の一人として宮城県の文化芸術の発展に寄与していくことが期待される。	 「吹」
大場 順一 (おおば じゅんいち・69歳) 美術(彫刻)部門 	昭和31年生まれ。 長年にわたり、地元である宮城を中心として東京や韓国、アメリカ、台湾など各地で個展を開いており、一貫して美術表現にとって根源的である物質性、行為性、空間などにおけるラジカルなせめぎあいの中から、緊張感ある表現を生み出してきた。 令和6年度は、令和7年2月に中本誠司現美術館で個展「ここNAKAMOTO あっぺとっぺ」を開催した。展示では、東日本大震災の記憶と経験から、大量の砂が導入され館内の一つのスペースが埋められ出入り不能となった。部屋一つ分の土砂と廃棄物が塊となって無言の存在感を示す中、観客はただただその埋め込まれ閉鎖したスペースの外側に立ってそれを眺めるしかないという示唆的な展示空間を生み出していた。 今後も、工芸的技巧や商業的趣向とは違った、美術の根源的でラジカルな活動を継続して、後進に刺激を与え続けることが期待される。	 「ここNAKAMOTO あっぺとっぺ」
樋田 隆 (ひだ たかし・69歳) 美術(工芸)部門 	昭和31年生まれ。 宮城県芸術祭工芸展や河北工芸展、日展など多数の公募展に入選や受賞を重ねてきたほか、韓国との交流展の開催に携わるなど文化芸術による国際交流にも寄与してきた。また、宮城県芸術協会工芸部の部長及び副部長を計8年務めるほか杜のみやこ工芸展の立ち上げにも尽力するなど、工芸界の発展に大いに貢献してきた。 令和6年度は2種類の緑釉を使って颯と吹き抜ける風の様子、風の音、緑の匂いを表現した作品「颯」で日展に4回目の入選を果たした。また、作品制作の傍らで高校の特別非常勤講師や陶芸教室での指導、美術展の審査員など精力的に活動し、幅広い年代の人々に陶芸の技術指導を行った。 今後も優れた作品の製作を続けるとともに指導者としても活躍を続け、工芸界を牽引していくことが期待される。	 「颯(ははやて)」
千田 基嗣 (ちだ もとつぐ・69歳) 文芸部門 	昭和31年生まれ。 平成24年に第49回宮城県芸術祭文芸年鑑の宮城県知事賞を、平成26年に第15回白鳥省吾賞優秀賞を受賞するなど優れた作品を発表してきたほか、これまで5冊詩集を刊行しており、地元である気仙沼の湾を意識した作品や寓意性の持つ批評眼などで高い評価を得ている。 令和6年度は誌の絵本「湾」を画家の山本重也とのコラボレーションで刊行した。震災にあった気仙沼の追憶や現在、これからを希求する美しい本となっており、読者、新聞、雑誌等でも広く支持を得たほか、ふるさと納税の返礼品の一冊にもなっている。また、宮城県詩人会20周年、詩誌「霧笛」40周年記念イベントの企画・開催に携わったほか各地域でのイベントで詩の朗読等を行うなど精力的に活動した。 今後も、優れた作品の制作とともに様々な企画や詩の朗読等を通じて詩の魅力や地域の文化の発信を続け、文芸界及び地域の文化芸術の発展に貢献していくことが期待される。	 絵本「湾」
布山 さと美 (ぬのやま さとみ・62歳) 舞踊部門 	昭和38年生まれ。 昭和41年に仙台ノイエタンツ研究所に入所後、東京で志賀美也子や庄司裕氏に師事し、昭和62年に第20回埼玉全国舞踊コンクールでモダンダンス成人の部第1位及び橘秋子賞、平成6年に第7回こうべ全国洋舞コンクールの創作部門で優秀賞、平成14年に社団法人現代舞踊協会のベストダンサー賞など、様々なコンクール等で多数受賞してきた。 令和6年度は、仙台ノイエタンツ研究所の現代舞踊公演で発表したダンサー14名、13分の大作「Rebornー生まれ変わる」の作品振付・指導・出演を行ったほか、(一社)現代舞踊協会東北支部合同公演で発表した、2団体16名の合同作品16分の大作「流転ー変わりゆく世界ーその中で我々は生きる・風・刻・生ー」の作品振付・指導・出演、(公財)宮城県文化振興財団主催の「みやぎアートファミリアの日」子どものためのワークショップの講師を務めるなど精力的に活動した。 今後も優れた作品の発表を続けるとともに、舞台やワークショップ等を通じたモダンダンスの更なる普及にも貢献していくことが期待される。	 「流転ー変わりゆく世界ーその中で我々は生きる・風・刻・生ー」

【芸術選奨新人賞】

部門順・敬称略

受賞者・部門	受賞理由(概要)	主な作品等
下斗米 あかり (しもとまい あかり・30歳) 美術(洋画)部門 	平成7年生まれ。 テンペラを用いた淡い色調とたくさんの動物が登場する優しい世界観が特徴であり、令和元年の第15回世界絵画大賞展や令和4年の第57回昭和会展で入選を果たしたほか、令和3年に若手作家の登竜門である昭和会展でニューヨーク賞を、令和5年に河北美術展で河北賞を受賞するなど様々な公募展で上位の賞を受賞しており、近年の活躍の様子には同年代の本県の他作家の追従を許さない勢いが感じられる。 令和6年度も優れた作品を制作し、第85回河北美術展で文部科学大臣賞を受賞したほか、第61回太陽展、第63回ミニヨン展への参加など精力的に活動した。 今後も県を代表する若手作家の一人として意欲的に作品の発表を続けて県内外でボーダレスに活躍し、県内の若手作家に刺激を与えていくことが期待される。	 「魚釣り」
村上 賀子 (むらかみ いわこ・39歳) 美術(写真)部門 	昭和61年生まれ。 氏の作品は静謐でいながら心の奥底で声のリフレインするような詩的な表現を持ち、そして批評性にも富んでいるという、写真の可能性を大いに感じさせてくれる写真家である。平成26年にトーキョーワンダーウォール2014、平成28年に第14回写真「1.WALL」で入選を果たしたほか、平成29年に東川国際写真フェスティバル 赤レンガポートフォリオ公開オーディションで準グランプリ、令和4年に第23回三木淳賞を受賞するなど、数々の公募展で高い評価を受けてきた。 令和6年度は、令和6年5月から6月にかけて個展「Anonymous Danes」を開催したほか同年10月にも個展「Known Unknown」を開催、さらに写真集「Known Unknown」の発行など活発に活動し、令和7年2月にはZOOMS JAPAN 2025でグランプリ受賞という栄誉に輝いた。 今後もより一層スケールの大きな作品を発表するとともに、写真家を目指す多くの若者に刺激を与え続けていくことが期待される。	 「Anonymous Danes」
吉岡 知広 (よしおか ともひろ・37歳) 音楽部門 	昭和63年生まれ。 平成22年に第9回ビバホールチェロコンクールで第4位を獲得、平成23年にライブツェル・ゲヴァントハウスオーケストラと学生契約し在籍するなど、早くから実力が認められてきた。現在は仙台フィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者を務めるほか、令和2年に始まった作曲家に焦点を当てたコンサート「イズミノト」で演奏に加えてコーディネーターとして企画を担当するなど、チェロという楽器の可能性を引き出そうと精力的に活動が続けている。 令和6年度は、「未来の作曲家コンサートin東北2024」で東北地方出身・在住の若手作曲家の7作品を初演したほか、「吉岡知広チェロリサイタル」を開催し、ピアノにジョンファン・キムを迎えて、演奏至難なブーランクのチェロ・ソナタ等をプログラムに取り上げ、充実した内容の演奏を披露した。 今後も優れた技能を発揮して多くの人に素晴らしい演奏を届けるとともに、コンサートの企画を通じて様々なジャンルの音楽を紹介し音楽が持つ幅広い魅力を普及していくことが期待される。	 「吉岡知広チェロリサイタル」より
本田 棕 (ほんだ りょう・35歳) 演劇部門 	平成2年生まれ。 学生時代の東北大学学友会演劇部公演への出演に始まり、劇団短距離男道ミサイル(現「MICHInoX」)の公演や東京夜光(東京)、コトリ会議(兵庫)、世界劇団(広島)への出演など各地で精力的に活動しており、令和元年には利賀演劇人コンクール2019で質の高い演技が認められ俳優として史上二人目の奨励賞を受賞した。 令和6年度は、MICHInoX「みちのく超人伝説II奥州藤原篇『黄金黎明伝 TSUNEKIYO X The Golden Dawn』-Episode 0- 千年後のあなたへ」(大阪、仙台)の作・演出・出演や、文化庁芸術家派遣事業(震災復興対応版)など地域に根ざした活動に加え、ストレンジシード静岡2024など全国的なフェスティバルにも参加するなど、幅広く活躍を見せた。 今後も俳優として質の高い演技を見せ続けるとともに、劇作家・演出家として、エンターテインメント性とメッセージ性を両立した優れた作品を発表し続けることが期待される。	 MICHInoX「黄金黎明伝 TSUNEKIYO X The Golden Dawn」
福原 悠介 (ふくはら ゆうすけ・42歳) メディア芸術部門 	昭和58年生まれ。 平成29年から、子供から大人まで幅広い世代を対象とする映像のワークショップ「対話インタビュー」を実施してきたほか、東京ドキュメンタリー映画祭 短篇部門奨励賞を受賞した「家にあるひと」の監督や、仙台で20年以上人形劇団を主宰してきた工藤夏海氏のドキュメンタリー映画「人形と動くもの」の監督を務めるなど、「映像で記録すること」を主軸に活動し、地域の映像文化の振興に寄与してきた。 令和6年度は、初の小説「何もない部屋」が第6回ことばと新人賞佳作を受賞したほか、飯岡幸子氏等の映像作家を招き過去の貴重な作品の上映やトークを行った「記録のまなざし」の企画、映画「オロボ」の監督など、映像作家としての活動にとどまらない多彩な活躍を見せた。 今後も地域の文化芸術を下支えする存在として様々な作家やアーティストの取組を映像で記録し続けるとともに、宮城県や東北の映像文化を牽引する作家としての代表作なるものを制作することが期待される。	 小説「何もない部屋」

記載している年齢は令和7年11月1日時点の年齢です。